様式３

会　　議　　録

会議名 （審議会等名）		令和８年度第１回相模原市立図書館協議会		
事務局 （担当課）		相模原市立図書館　電話：０４２－７５４－３６０４（直通）		
開催日		令和８年６月２６日（金）～７月５日（日）（書面開催）		
出席者	委　員	１０人（別紙のとおり）		
	その他	０人		
	事務局	３人（外２人）		
公開の可否		□可　■不可　□一部不可	傍聴者数	０人
公開不可・一部不可の場合は、その理由		書面会議のため		
会議次第		（１）令和７年度における主な取組について （２）令和８年度の予算について （３）書店連携の取組について （４）淵野辺駅南口周辺のまちづくりの取組状況について		

審　議　経　過

（令和８年６月２日台風６号による影響を鑑み、会長・副会長との協議の結果、書面開催とした。）

（１）令和７年度における主な取組について

（小山副会長）　市民登録率の改善に向けて、図書館外に出向いて実施した各図書館の取り組みは高く評価できる。図書館を市民のみなさんが身近に感じることができるよい機会になったのではないかと考える。ＳＮＳを活用した情報発信への積極的な取り組みも同じ意味で評価できる。内容の更なる充実を期待したい。

指標５に関して、子どもたちへのアプローチはこれからの利用者を育てるという意味でも重要であり、高く評価できる。橋本図書館はウィキペディアタウン、レファレンス協同データベースへの登録など、積極的に取り組んでいるようすに好感が持てる。

指標７の達成に向けて、図書館だけでなく他の組織、人と協働して、多様なイベントを実施し、市民の文化、生活に積極的に関与している姿勢が高く評価できる。多くの参加者のあったイベントが複数あり、市民からも支持を得ていると考えられる。他方、全体を通じて、市内の拠点図書館での活動に偏っている印象も受ける。市内全域を見渡した活動も期待したい。

（佐藤（純）委員）　図書館の内外、市民（子どもから高齢者まで）へ向けての各種多様な取組はそれなりの成果をあげ、今後の図書館事業・運営に寄与、生かされていくものと思う。

（佐藤（玲）委員）　「旅するスタンプラリー」の配布により、新規登録者が増加したことは大きな成果である。図書館ボードゲームは、参加者も多かった。図書に限らず、スペースを有効に活用した事業を行うことで、図書館を利用する人が増えると感じた。学校でも電子書籍の活用が定着している。更に活用率が高められるとよい。

（渡辺（裕）委員）　橋本図書館での「おはなしボランティア養成講座」育成及びデビューが紹介されていた。次年度以降の同種の養成講座の計画はあるのか、今後の予定について知りたい。他の図書館での同種の計画及び相模原市全体の図書館における「おはなし会ボランティア」やその他

の「図書館ボランティア」の活動状況について、具体的に興味があるため、知りたい。

（事務局）　おはなしボランティア養成講座は、市立図書館・相模大野図書館・橋本図書館の３館を順番に会場として毎年開催しています。令和６年度は橋本図書館、昨年度は市立図書館で開催しました。今年度は相模大野図書館で開催を予定しており、来年度以降も継続して実施してまいります。おはなし会ボランティアにつきましては、令和８年７月現在、３０団体が市内の図書館で活動されています。

その他の図書館ボランティアにつきましては、ページがゆるんだり破れたりした図書等の修繕を行うボランティアや、主に中高生世代向けの図書のＰＯＰ展示を行う、学生が活動しているＹＡボランティアのほか、書架の本のクリーニングを行うボランティアにご協力いただいています。

（松浦委員）　図書館でボードゲーム、大人向けの紙芝居会、等の取り組みは、今後も有意義なものとなるように思う。ＡＩ時代、今後より豊かな人間関係の構築が社会のキーとなると捉え、企業等でも、休憩時間にボードゲームやカードゲームを取り入れて、社員間のコミュニケーションを高める試みが多くなされている。図書館でも、世代・性別を超えて、市民が豊かに交わり相互の理解を深めるための文化コミュニケーションは必要である。

（渥美委員）　地域には大学、市民団体、書店、企業など、多様な知的資源がある。図書館がそれらを結び付ける「知のハブ」として機能することで、市民の学びと活動の循環がさらに促進されることを期待している。今回の取組は、その方向性を示すものとして高く評価している。

新規登録者について、登録後の貸出利用率や継続利用率などの分析は行っているのか。登録者数だけでなく、継続的な利用につながったかについても今後の評価指標として検討していただきたい。

（事務局）　新規登録者の登録後の利用率等につきまして、個別の分析は行っていません。継続的な利用にどの程度つながったかを測定する手法等につきましては、研究してまいります。

（渡部委員）　豊かな老後のためのお金の話について、主に高年齢層をターゲットとし、市民の関心が高いお金の運用や制度について、講座を開催したことは新しいよい企画だと思う。終活セミナー「わかりやすい相続の

基本と対策」、も同様。図書館でボードゲーム　多様な参加者間のマッチングを図ることで多世代地域交流を促進し、図書館の本の貸出をイベント企画の一部に盛り込み図書館利用促進にもつなげることができたこともよかった。

（２）令和８年度の予算について

（小山副会長）　図書資料充実費、読書活動推進事業がそれぞれ増額でき、今後の活動に注目したい。施設設備の老朽化が進む中でも、図書館授乳室整備事業といった予算を獲得できたことも評価できる。

（渡辺（晃）委員）　各費用の使い道が／部分などよくわからなかった。

市立管轄図書室の新聞購入は利用が少ないか。新聞を見に来る方と、紙芝居を借りる方は月の人数に差があるか。紙芝居の利用は毎年増えているのか。紙芝居も古くなるので新調が必要である。例えば七夕みたいな季節ものストーリーは年少用・低学年用など揃えるなど工夫が見えない。子ども支援に行政は力を入れているけれど実際１歳から保育園へ行く家庭が増えている。もっと乳幼児に見せたい絵本を増やすなどニーズの把握作業が知りたい。

（事務局）　斜線で示した箇所につきましては、該当する予算措置がないことを示しています。

新聞は閲覧専用で貸出を行っていないため、利用を測定する数量的なデータはございません。ただし、職員が新聞コーナーでの閲覧状況や、複写及び過去の新聞の出納などの利用を目視している中では、いずれの図書館においても、定期的に多くの方にご利用いただいていることを確認しています。

紙芝居の利用状況につきましては、直近３年間では４館と公民館図書室の合計で令和５年度が 20,547 点、令和６年度が 17,951 点、令和７年度が 18,252 点と、ほぼ横ばいで推移しています。子ども向けの資料のニーズにつきましては、貸出数や資料の状態等から把握するよう努めていますが、乳幼児向けの資料等につきまして、引き続きニーズに合った選書を心掛けてまいります。

（佐藤（玲）委員）　各図書館への図書費が増額となったことはうれしいことである。

（渥美委員）　図書館の予算は、資料購入だけでなく、市民・大学・地域団体をつなぐ「知のネットワーク」を育てるための投資という視点も重要だと

考える。限られた予算の中でも、市民協働による事業を積極的に進めることで、より大きな効果が期待できると思う。

電子書籍の利用が増加している一方で、紙の図書とのバランスはどのような考え方で予算配分を行っているのか。また、今後の電子書籍資料費の割合について中長期的な方針があれば教えてほしい。

（事務局）　予算配分や資料費の割合の考え方としまして、事業や予算の性質が異なることから、紙の図書の予算から電子書籍のための予算を差し引くのではなく、それぞれ独立して確保しています。

紙の図書の予算は、今後の中央図書館機能の確立・充実を見据えて積極的に増額要求を行い、充実に努めているところです。また、電子書籍サービスにつきましては、利用状況や主たる利用者である小中学生の意見を踏まえたコンテンツの選択と集中による効率化を図り、確保できた予算の範囲内で事業を実施してまいります。

（渡部委員）　図書資料充実経費が増えたことはよかった。

（３）書店連携の取組について

（佐藤（純）委員）　かつての昭和の時代を象徴する町の本屋さんが消えて久しい今、市民は大型商業施設内の大手の書店（未来屋、くまざわ、有隣堂、紀伊国屋「老舗だが」）で雑誌や本を探し求めている。情報機器万能な今の社会状況の渦中、進行を食い止め、本好き、読書習慣を持つ市民（子どもから高齢者まで）をいかに増やしていくのか、学生ボランテイアの参加などよいことだと思う。ブックオフとの連携も結構だと思う。古本購入のツタヤとの連携も何か出来るのかと思う。

（渡辺（晃）委員）　学生による読み聞かせイベントは利用拡大にいい取り組みである。和泉短期大学や桜美林大学など青学ばかりでなく他の大学も活躍の枠を増やせるとよい。社協や市民サポートが行うボランティアチャレンジとのタイアップや地域の方が関心を持てる取り組みを図書館ばかりが担うのではなく、協働課の学生担当や、若者課が繋げ、問い合わせがわかりやすいとよい。現在、和泉短期大学の図書館にはたくさんの児童書や大きな絵本がある。

（佐藤（玲）委員）　全国初のリユース品回収ボックスが有効活用されることを願っている。学生と書店とがコラボした企画も興味がわいた。

（渡辺（裕）委員）　昨今、書店消滅都市の報道を目にすることも度々ある中で、ある種、隔絶されていたともいうべき、図書館と書店の連携について、喜ばしく思う。書店とおはなし会の連携は、読書文化の入り口・醸成に繋がる。紹介されていたＰＯＰの字が小さくわかりづらい。もっと大きな字ではっきりと、見やすくした方が目について良いのではないか。
ブックオフの寄贈予定の図書は、中古品か・新品かどちらであるのか？

（事務局）　中古品で、汚損や破損のない本を寄贈していただく予定となっています。

（松浦委員）　公的機関としての市立図書館と、ある一定の書店（今回の報告では未来屋書店・ブックオフコーポレーション・紀伊國屋書店、いずれも大手）との癒着と市民に誤解されないように市書店組合を通じた取り組みであることの周知が必要に思う。

（事務局）　ご指摘につきましては、図書館としてももっともなことであると受け止めており、誤解が生じないよう適正な手続きの下取組を進めるとともに、周知等の対応に努めてまいります。
今回ご報告した取組につきましては、市書店組合を通じたものではございませんが、いずれも市内に店舗を有する企業として、地域の読書文化への貢献等の主旨でご協力をいただいています。また、ブックオフコーポレーションとの連携については、本市との包括連携協定に基づき、本の寄贈等によるリユースの推進に取り組んでいます。

（渥美委員）　私は、二の橋書店という古書店で、シェア本棚を運営している。図書館と古書店の連携について新しい取り組みができればよい。

（渡部委員）　ブックオフコーポレーション株式会社との連携は、本が好きな人たちの図書館の利用促進につながる可能性があると思う。

（５）淵野辺駅南口周辺のまちづくりの取組状況について

（佐藤（純）委員）　大和市のシリウスのような形態を目指しているかと思う。複合施設で指定管理者方式になると思うが、地域の要望、地域との連携を大事してもらいたい。

（松浦委員）　進捗状況は確認できたが、相模原市民の中には、この計画が立ち消えになったとの解釈をしているものが意外に多く、「淵野辺駅南口周辺のまちづくり」に対する市民への広報活動の工夫が必要に思われる。
（市民に希望をもってほしい）

（渡部委員）　　費用の増加が懸念される。

（渥美委員）　　施設そのものの整備だけでなく、図書館を中心として市民活動や大学、地域団体との連携が生まれる運営を期待する。また、デジタル技術による人流分析やＶＲを活用した検討結果についても、市民に分かりやすく公開し、まちづくりへの理解と参加を促進していただきたい。

　蔵書目録や貸出状況をオープンデータとして公開する予定はあるか。公開されれば、市民や大学、民間事業者による新たなサービスや研究への活用が期待できると考える。また、図書館と地域との連携や、市民参加による読書推進活動をさらに発展させる契機になるのではないか。

（事務局）　　蔵書目録や貸出状況につきましては、図書館ホームページの検索等の機能の中でご利用いただいているところですが、データ作成業者との使用契約に関わることや、システムに係る追加費用発生などの課題から、加工や再配布が可能なオープンデータとしての公開の予定はございません。ホームページでは、資料検索や利用状況が確認できる機能等を用いて蔵書や貸出状況をご覧いただけるほか、ベストオーダー（予約の多い本）とベストリーダー（貸出の多い本）を掲載しております。また、統計資料として過去５年分の「相模原市の図書館」を公開しており、その中で貸出の全体的な状況について確認ができます。

　なお、図書館の蔵書目録とは異なりますが、本市ではオープンデータやデジタルアーカイブの取組を各課・機関が一体的に進めているところです。

・　相模原市オープンデータカタログサイト
　https://opendata.city.sagamihara.kanagawa.jp/
・　さがみはらデジタルアーカイブ
　https://digital-sagamihara.jp

以　上

令和８年度第１回相模原市立図書館協議会委員出欠席名簿

	役　職	氏　名	所属等	出欠席
1	会　長	大谷　康晴	青山学院大学教授	出　席
2	副　会　長	小山　憲司	中央大学教授	出　席
3	委　員	佐藤　玲子	相模原市立小学校長会	出　席
4	〃	渡部　賢一	相模原市立中学校長会	出　席
5	〃	佐藤　純	相模原市公民館連絡協議会	出　席
6	〃	井上　邦子	相模原市社会教育委員会議	出　席
7	〃	渡辺　晃子	みらい子育てネットさがみはら 連絡協議会	出　席
8	〃	松浦　浩樹	和泉短期大学教授	出　席
9	〃	渥美　聡一郎	公募	出　席
10	〃	渡辺　裕子	公募	出　席